

令和3年度京都府立峰山高等学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（最終評価）

学校経営計画（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）																																				
○ 京都府北部の中核校として、伝統を継承しながら高い理想を求め続け、地域に信頼される学校づくりを推進する。 ○ 教育スローガン（校是）、教育方針、教育目標及び求める生徒像の具現化のため、全教職員が一体となって取り組む。 ○ 全教育活動を通して、生徒と教職員が共に成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。	【成果】 ・学校評価アンケート、「子どもを入学させてよかったと思っている」、「入学してよかったと思っている」での高い肯定率 ・ホームページの一新やInformationの充実による保護者や地域の方々への教育活動の様子の効果的な発信 ・地域及び大学等の関係機関との連携によりいさなご探究（探究活動）が充実し、主体的な学びが充実した。 ・英語指導力向上事業の充実による英語4技能育成と希望進路の実現につながる英語力の育成 ・スマートスクール推進事業によるICT機器の有効活用を充実させコロナ禍での学びの充実につなげることができた。 ・地元企業の連携・支援による機械創造科のインターンシップやデュアルシステムの充実及び近隣の小・中学校へのプログラミングの出前授業による生徒の自己肯定感の醸成と特色ある専門学科づくりの進展。 ・コロナ禍の厳しい状況においても、国公立四大への推薦・AO入試を含めた、延べ48名の合格。 ・コロナ禍の厳しい状況においても、早い段階で就職希望者の内定率は100%を達成。 ・毎朝の教職員による校門指導や生徒会を中心とした各種取組等を通し、規律ある学校生活が維持できた。 ・遅刻者数、自主学習時間、授業満足度において、概ね目標値を達成した。 ・携帯電話等の持込みや使用について、ルール、マナーを守り、授業等で効果的に活用できた。 ・積極的なスクールカウンセラーの活用と情報共有により支援が必要な生徒等への対応がより進んだ。 ・生徒による校内美化に関する新たな取組を通して、美化意識の向上が見られた。 【課題】 <table><tr><td>【全体】</td><td>①各領域の重点目標及び具体的方策の焦点化と目標値の検討</td></tr><tr><td>【特色化事業】</td><td>②生徒への事業の周知方法の工夫と社会貢献意識の醸成</td></tr><tr><td></td><td>③大学等の教育機関との連携やroots（京丹後市未来チャレンジセンター）を介した地域連携による事業促進</td></tr><tr><td>【学習指導】</td><td>④新しい学習指導要領に対応した指導・評価の在り方の検討</td></tr><tr><td></td><td>⑤ICT機器を有効活用した教育の充実とBYODの組織的で効果的な運用</td></tr><tr><td></td><td>⑥探究的な学習の更なる充実と主体的に学ぶ姿勢を育てるための授業改善に向けた組織的取組</td></tr><tr><td>【生徒指導】</td><td>⑦規範意識の更なる向上とICT機器の使用に関する情報モラルの育成</td></tr><tr><td></td><td>⑧部活動加入率及び定着率の向上と学習と課外活動の両立に向けた体制の整備</td></tr><tr><td>【進路指導】</td><td>⑨分掌・学年部・教科等との連携による進路指導体制の更なる充実</td></tr><tr><td>【人権教育】</td><td>⑩人権学習の効果的な実施と日常の指導における自尊感情の涵養</td></tr><tr><td>【家庭・地域連携】</td><td>⑪ホームページやチャットツールを活用したタイムリーな情報発信</td></tr><tr><td></td><td>⑫学校運営協議会やPTAの支援に基づく家庭・地域との更なる連携</td></tr><tr><td>【図書・情報活動】</td><td>⑬言語活動の充実に向けた図書館の多角的な利用の推進</td></tr><tr><td></td><td>⑭行事等でのICT機器の有効活用とセキュリティ体制の維持</td></tr><tr><td>【健康・安全指導】</td><td>⑮生徒保健委員による美化意識の更なる向上</td></tr><tr><td></td><td>⑯教職員のカウンセリングマインドの育成と組織的な教育相談体制の確立</td></tr><tr><td>【特色ある専門学科】</td><td>⑰教育活動と進路実現の更なる充実による魅力ある機械創造科の進化</td></tr><tr><td></td><td>⑱地元企業・諸団体との連携強化（デュアルシステム・インターンシップの充実）</td></tr></table>	【全体】	①各領域の重点目標及び具体的方策の焦点化と目標値の検討	【特色化事業】	②生徒への事業の周知方法の工夫と社会貢献意識の醸成		③大学等の教育機関との連携やroots（京丹後市未来チャレンジセンター）を介した地域連携による事業促進	【学習指導】	④新しい学習指導要領に対応した指導・評価の在り方の検討		⑤ICT機器を有効活用した教育の充実とBYODの組織的で効果的な運用		⑥探究的な学習の更なる充実と主体的に学ぶ姿勢を育てるための授業改善に向けた組織的取組	【生徒指導】	⑦規範意識の更なる向上とICT機器の使用に関する情報モラルの育成		⑧部活動加入率及び定着率の向上と学習と課外活動の両立に向けた体制の整備	【進路指導】	⑨分掌・学年部・教科等との連携による進路指導体制の更なる充実	【人権教育】	⑩人権学習の効果的な実施と日常の指導における自尊感情の涵養	【家庭・地域連携】	⑪ホームページやチャットツールを活用したタイムリーな情報発信		⑫学校運営協議会やPTAの支援に基づく家庭・地域との更なる連携	【図書・情報活動】	⑬言語活動の充実に向けた図書館の多角的な利用の推進		⑭行事等でのICT機器の有効活用とセキュリティ体制の維持	【健康・安全指導】	⑮生徒保健委員による美化意識の更なる向上		⑯教職員のカウンセリングマインドの育成と組織的な教育相談体制の確立	【特色ある専門学科】	⑰教育活動と進路実現の更なる充実による魅力ある機械創造科の進化		⑱地元企業・諸団体との連携強化（デュアルシステム・インターンシップの充実）	1 質の高い学力を定着させ希望進路の実現に繋げるとともにこれからの社会を生き抜いていくために必要な資質・能力を育成する。 2 大学や地域の関係機関との連携を深めキャリア教育の充実を図るとともに、郷土を愛し地域社会へ貢献する態度を育成する。 3 世界に貢献する高い志を持ち、グローバル化の進展に柔軟に対応できる人材を育成する。
【全体】	①各領域の重点目標及び具体的方策の焦点化と目標値の検討																																					
【特色化事業】	②生徒への事業の周知方法の工夫と社会貢献意識の醸成																																					
	③大学等の教育機関との連携やroots（京丹後市未来チャレンジセンター）を介した地域連携による事業促進																																					
【学習指導】	④新しい学習指導要領に対応した指導・評価の在り方の検討																																					
	⑤ICT機器を有効活用した教育の充実とBYODの組織的で効果的な運用																																					
	⑥探究的な学習の更なる充実と主体的に学ぶ姿勢を育てるための授業改善に向けた組織的取組																																					
【生徒指導】	⑦規範意識の更なる向上とICT機器の使用に関する情報モラルの育成																																					
	⑧部活動加入率及び定着率の向上と学習と課外活動の両立に向けた体制の整備																																					
【進路指導】	⑨分掌・学年部・教科等との連携による進路指導体制の更なる充実																																					
【人権教育】	⑩人権学習の効果的な実施と日常の指導における自尊感情の涵養																																					
【家庭・地域連携】	⑪ホームページやチャットツールを活用したタイムリーな情報発信																																					
	⑫学校運営協議会やPTAの支援に基づく家庭・地域との更なる連携																																					
【図書・情報活動】	⑬言語活動の充実に向けた図書館の多角的な利用の推進																																					
	⑭行事等でのICT機器の有効活用とセキュリティ体制の維持																																					
【健康・安全指導】	⑮生徒保健委員による美化意識の更なる向上																																					
	⑯教職員のカウンセリングマインドの育成と組織的な教育相談体制の確立																																					
【特色ある専門学科】	⑰教育活動と進路実現の更なる充実による魅力ある機械創造科の進化																																					
	⑱地元企業・諸団体との連携強化（デュアルシステム・インターンシップの充実）																																					

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
府立高校特色化事業 「グローバルネットワーク京都」	学力向上（アカデミックミネ）	・各種コンテストへの参加や検定受検、「科学の教室」「人文科学の教室」への参加、高大連携事業への参加を促す。 【コンテスト参加、検定受検人数 延べ1000名以上】 【「科学の教室・人文科学の教室」実施件数年間7回以上】 【高大連携事業の取組 肯定的評価 80%以上】	B	B	B	コンテストや検定への参加を担当や教科担当より促し、1070名が参加した。科学の教室・人文科学の教室ではコロナ禍の影響で日程調整が難しく実施件数は5件であったが、高大連携事業の取組に関する調査では、80%以上の肯定率が得られた。 国際交流会やいさなご探究Ⅰ，Ⅱ，Ⅲそれぞれにおいてオンラインを主体とした交流を実施した。いさなご探究Ⅰでは市役所の方々を中心に、いさなご探究Ⅱ，Ⅲでは企業の方や地域の方々を中心にした交流を主とする授業を3件実施した。 夏休み前には生徒が地域活動を行うための通信を発行し、探究活動にかかわるホームページの更新も毎学期1回以上行った。京丹後市のrootsを通して地域連携の取組や京都skyセンターとの連携を図り44件実施した。今年も緊急事態宣言等の新型コロナウイルス感染症の影響を受け取組は制限されたが、コロナ禍であっても外部と連携をより一層はかっっていく必要がある。
	コミュニケーション能力の向上（コミュニケーションミネ）	・総合的な探究の時間（いさなご探究）を中心に、卒業生や企業人、留学生との交流を通して、コミュニケーション能力や国際性を育成する。 【年間授業件数3件以上】	A	A		
	社会貢献意識の向上（コミュニティミネ）	・「コミュニティミネ」と題し、生徒が地域で学ぶ機会を積極的に設け、参加を促す。rootsや京都skyセンターと連携を図りながら積極的な活動を行う【80件以上】 ・探究活動を通じて地域活動を行う。 【地域活動参加発信活動 毎学期 1 回以上】	B	B		

中間 最終						
評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
学習指導	主体的学習態度の育成	・教務部・学年部・生徒指導部等が連携し、保護者の協力を得て、始業5分前登校を徹底させる。 【遅刻防止週間遅刻者数：1日平均2人以下】 ・各教科・学年等と連携して、計画性のある自主学習を推進する。【自主学習時間：1日平均2時間以上】	B	B	B	遅刻者数は1学期が1日平均1.2人、2学期が1日平均2.5人と増加傾向にあったが、低い数字で推移した。 学習時間については定期考査前の平日は全体平均で2時間以上であったが、2年生では2時間を下回る状況や休日の学習時間が少ない傾向が見られた。中だるみが生じないように学年部と連携して指導していきたい。 ICT機器を活用した授業では6月から1年生でBYOD（1人1台端末）をスタートさせ、各教科で活用方法を研究・実践している。6月と11月にBYODに関するスマートスクール公開授業を府立学校対象に実施し、授業の手法等の成果を共有した。 探究活動について、カリキュラムを改定し学年とも連携しながら運営している。教員研修はWWL教員研修を実施し探究活動の手法を学んだ。公開授業においては、ミニ報告会、中間報告会、最終報告会の3つを公開予定であったが、感染防止の観点からミニ報告会が実施できなくなってしまったため、年間2回の実施となった。授業アンケートでは、「探究活動は充実していた」と90%以上の生徒が回答した。次年度に向けて成果と課題を確認して今後の取組に活かしていく。
	教科指導力の向上	・生徒の学力把握とICT機器を活用した授業手法の研究 【ICT機器の環境整備と授業手法の研究・公開】	B	A		
	総合的な探究の時間における探究的活動の充実	・探究活動の取り組み内容を計画・立案し、円滑に進める。 ・探究的な活動についての教職員研修会を設ける。 【年間1回以上】 ・探究的な活動に関わる公開授業を実施する。 【年間3回以上】 ・持続的に探究活動に取り組む生徒を育てる。 【1～3年生3学期授業アンケートにおいて 探究活動は充実していた 90%以上】	C	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
生徒指導	規範意識の向上	・ 校内外での規範意識の向上に努める。 【携帯電話に関する指導 30名以内】 【特別指導件数 5 件以内】 ・ 学年部をはじめ、関係分掌との連携を密にし、いじめを含む問題事象の未然防止に努める。 【生徒指導部日より 年間15号以上発行】 【学年会での情報交換 年間 8 回以上】	C	C	B	携帯電話に関する指導件数、特別指導件数ともに数値目標を大きく超える結果となった。身だしなみについての指導も含め指導を受ける生徒は固定化しつつある。学年との連携は指導の際にその都度図ってきたが、方策としてあげた学年会への参加による情報の共有や生徒指導部便りを通じた情報発信は目標数値を達成しておらず、規範意識向上のため先手の取組を実施していくことが次年度への課題である。 部活動加入率は81.9%（新入生加入率93.7%）、定着率96.5%と目標を達成することができた。近畿や全国レベルでの活躍が見られる部活動もあり、各部活発に活動することができている。下校時間を徹底させるについては、声かけ指導を実施しており成果が出てきている。 生徒会活動は毎週定例会を行い、各局が積極的に活動を始めており、今後、生徒による主体性のある様々な取組が期待される。 ボランティア活動ではコロナ禍のため、新規の開拓はできなかったが、限られた活動の中ではあるが、多くの生徒が積極的にボランティア活動に参加し一生懸命取り組む姿を見ることができた。
	特別活動の活発化	・ 部活動の加入率と定着率を向上させるとともに、学習と部活動の両立ができる環境を作る。 【新入生部活動加入率 80%以上】 【部活動定着率93%以上】 【19時30分完全下校の徹底】 ・ 生徒会主催の活動を活発化させる。 【学校行事以外の生徒会主催の取組 5 つ以上】 ・ ボランティア活動の推進、広報活動、新規連携 【新規連携事業 3 件以上】	B	B		

中間 最終						
評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
進路指導	希望進路の実現	・ 教務部・学年部・各教科等との連携を強化し、生徒個々の学力・進路希望の実態に即した組織的な指導を行う。 【国公立大学合格者 延べ40名以上】 【就職内定率 100%】 【進路検討会 年間 4 回以上】 【進路担任面談 年間 3 回以上】	B	A	A	新型コロナウイルスの影響により当初予定していた行事の中止、日程や内容の変更を余儀なくされたが、生徒対象の行事は外部講師によるものも含めて、調整しながら実施することができおり、民間企業就職希望者は18名全員が一次応募で内定した。国公立の推薦合格者については11名と健闘した。現在、大学入試においては一般選抜が行われており、生徒たちは健闘を続けている。 学年部と進路指導部の連携による進路検討会を 4 回実施し、系統的な進路指導に繋げることができた。 進路ガイダンスや講演会の実施回数や参加人数は目標数を超えており、適切な時期に生徒たちへの情報提供や意識づけを行うことができた。
	キャリア教育の充実	・ 3 年間を見通した系統的かつ体験的・実地的な活動を通して、将来を展望した主体的な行動を促す。 【進路ガイダンス・講演会 6 回以上】 【進路体験活動参加 延べ100名以上】	B	A		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
人権教育	生徒および教職員の人権意識の向上	・生徒が相互に人権を尊重する意識を涵養する。 【生徒の実態に合ったホームルーム人権学習を計画・実施し、適切な事後指導を行う（各学年3回）。】 ・教職員の人権教育を推進する意識の向上を促す。 ・すべての教育活動を通じて生徒の自尊感情を高め、他者の人権を尊重する姿勢を育てる。 【<生徒アンケート>「生命や人権を尊重する指導が適切」 肯定率90%】	B	B	B	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初予定されていた外部講師の講演が2件となった。今後、学年と連携し適切な時期に実施していきたい。今年度からの新たな取組として、「スマホ・ケータイ人権教室」として外部の講師によるオンラインでの人権教育を生徒指導部と共同で行うことができた。BYOD先行実施校としてネットリテラシー及びネット上での人権意識の向上に効果があった。 生徒アンケートの「生命や人権を尊重する指導が適切に行われている」が90%の肯定率であり、生徒に対する人権教育が一定の成果をあげていると言える。

中間 最終						
評価領域	重点目標		評価			成果と課題
家庭・地域連携	広報活動の充実	・ホームページや「峰高インフォメーション」によって、生徒の活動や学校の取組を幅広くタイムリーに発信する。 【<保護者アンケート>「広報活動が充実」肯定率80%】	B	B	B	広報活動において「峰高インフォメーション」のリニューアルなど、新しい取組を進めることができた。今後はツイッターの更新頻度を上げることやホームページの定期的な更新を教職員に働きかけていく。 コロナ禍においてPTA活動の多くの事業が中止・延期となったが、PTA総会を年度初めに実施できたことで各事業への影響を抑えることができた。また、総会の議決を書面決議で行い、Formsを活用し集計したことで例年の3倍、PTA会員の約6割にあたる約400件の回答を得ることができた。またコロナ禍の中、PTA会員研修会を学校行事の芸術鑑賞に組み込み、規模を縮小しながら実施することができた。今 学校評価アンケートの結果では77%の保護者が「広報活動の充実」を、78%の保護者が「家庭と担任や学校との連携」を肯定的に評価しているが、保護者の67%と生徒の87%が「学校の情報は家庭に適切に伝えられている」と感じていることから、更なる連携や情報発信を進めて行くことが課題である。
	地域・保護者・PTAとの連携	・三者面談、PTA総会、PTA事業、学校祭等のPTA共催・後援行事への積極的な参加を促す。	B	B		
		・ホームページ・ツイッターを活用し、学校の様子をタイムリーに保護者に伝える。 【<保護者アンケート>「家庭と担任や学校との連携」肯定率75%以上】 【<保護者・生徒アンケート>「学校の情報は家庭に適切に伝えられている」 肯定率90%】	B	C		

評価領域	重点目標		評価			成果と課題
図書・情報活動	読書活動の充実、図書館利用の促進	・教職員や図書委員などが自身の読書体験や本の紹介を発信する機会を設け、生徒の読書活動を促進する。 ・図書館を活用した学習活動・特別活動の計画を促進し、活動をサポートする。 【学校図書館が関わる各種コンクール・コンテストへの積極的な参加 各学年10件】	B	B	B	読書活動の推進として「先生のおすすめ本」と「図書委員のおすすめ本」の発行と展示を行った。9月には朝読書の時間を設け、読書に親しむ機会とした。感染拡大防止のためクラス内でのビブリオバトル大会は開催できなかったが、11月に図書委員会主催で参加者を募って開催することができた。 図書館内での授業やオリエンテーションを座席数を減らす等の感染防止をしながら実施し、資料提供や調べ方についての支援を継続的に行った。コンクールの応募は「新潮文庫ワタシの一行大賞」へ13人、「ポプラ社の全国学校図書館POPコンテスト」へ4人が応募した。 校内LANの運用については、不通となるトラブルが発生したが、これが契機となり、LAN再敷設工事が実施され、安定した校内LANの管理・運営が可能となった。
	校内LANの適切な運用	・校内LANの適切な管理・運用と研修により、情報を安全かつ効果的に活用し教育効果を高める。 【校内LANにおける重大事象の発生が0件】	B	B		

中間 最終						
評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
健康・安全指導	基本的・自立的な生活習慣の確立及び自己管理能力の育成	・生徒保健委員(美化担当)の学期毎の清掃点検及びクリーンプロジェクトの実施 ・生徒保健委員（保健担当）の生活アンケートの実施と保健委員会だよりの発行	C	A	A	クリーンプロジェクトを4回実施し、目の届きにくい箇所の丁寧な清掃や普段実施できていない溝掃除、草引きなどが実施できた。 健康課題のある生徒については、定期的ではないが必要に応じて適切に状況を聞くことができた。 生活アンケートは10月下旬に実施し、その後に保健委員会だよりを発行してきた。朝食の有無、通学時間、睡眠時間、SNSやゲームについて等のアンケート結果を保健委員が分析し生徒への健康アドバイスを記載した。
		・健康課題のある生徒の相談活動の充実 【学期に1回面談】	B	B		Formsによる健康観察が定着し朝の保健委員による放送での注意喚起等、未入力者を減らす努力をしたが、依然として未入力生徒が一定数いる状況である。
	感染症予防に対する意識を向上させる	・Forms（アンケートツール）活用による健康状態の把握	B	B		教育相談についてはスクールカウンセラー、該当学年と協力して保護者と連携しながら実施できた。教育相談会議は定期的を実施し、心身に不調を抱える生徒についての情報共有と対応について保健部内で月に3～4度以上話し合うことができた。
	メンタルヘルスの問題を早期に支援	・スクールカウンセラーを活用し継続した教育相談に取り組む【定例教育相談会議 年8回】	B	A		新型コロナウイルス感染症の感染予防を徹底させるための取組を実施し、校内でのクラスター発生を未然に防ぐことができた。
		・心身の不調につながる生徒に対し、継続した健康相談に取り組む【保健部会内 月2回】	B	A		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
特色ある専門 学科	地域連携のさらなる拡充	・デュアルシステム、インターンシップ、企業見学により 職業指導を充実させ、地域に根差した人材育成に繋げる。 【2年生インターンシップ全員参加】 【3年選択授業対象者デュアルシステム全員参加】 【事前・事後指導5時間以上】 【地元就職5名以上】	B	B	B	デュアルシステム・インターンシップはコロナ禍の中、地元企業と調整を行いながら実施することができた。事前事後の指導時間を十分に確保することで、取組をより有効なものにすることができた。 インターンシップ（2年生）については全員参加することができ、予定通り4日間の日程で実施できた。デュアルシステム（3年生）についても全員参加で実施できたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施日程の大幅な削減を余儀なくされた（9日間→2日間） 3年生の就職については好調であり、地元就職者についても6名となり、目標数を超える結果となった。
		・「京都府織物・機械金属振興センター」、「京都職業能力開発短期大学校」等の近隣で利用可能な職業訓練機関での実習を充実させる。 【40時間以上】	B	B		京都府織物・機械金属振興センターでの実習は新型コロナウイルス感染症の影響で、機械創造科全学年トータルで36時間程度にとどまったが、生徒1人につき一度は実施をすることができたことは大きい。
		・小中学校向けの出前授業や校外イベント等で学科の活動を展示発表する。 【5件以上】	B	A		コロナ禍の中、小中学校で計5回の出前授業を実施することができ、小中学生に学科の活動を伝え、工業の楽しさを伝えることができた。

中間 最終

学校運営協議会 による評価	・スマートスクール事業やＢＹＯＤ（一人一台端末）先行実施等のICT教育について、ここ数年でめざましい発展を遂げ、充実した取組が進んでいる。その取り組みを更に発展させることはもちろん、これまでの教育の良い点は残し、融合させることでより良い教育を進めて行って欲しい。 ・進路に関する指導が丁寧に行われているという地域からの声も聞いている。高校の教育を通して地域を支えてくれる人材の育成を念頭に置き教育を進めて欲しい。その点では、京丹後市のrootsの協力を経て地域との連携を進めているいさなご探究（総合的な探究の時間）や地元企業の協力で実施しているデュアルシステム（機械創造科）の取組は有効である。 ・生徒一人ひとりを大切に丁寧な教育を進めることはたいへん良いことであるが、社会で言われている働き方改革を進めることで教職員の負担を軽減することがより良い教育に繋がると思うのでしっかりと進めて行って欲しい。 ・教職員の産休、育休について保護者の間で話題になっている。学校として保護者に対してしっかりと説明することが必要だと考える。一方で社会がまだまだ、男性教職員の育休を認める段階まで成熟していないように思う。地域や保護者の理解を得るための説明が必要と考える。 ・学校評価アンケートの「学校の情報が家庭に十分に届いていない」の項目の評価が低いことに関して学校ができる点を洗い出して改善を進めて欲しい。ただ、学校の努力だけで改善することではなく、保護者の協力が必要に思う。PTAの場で議論し協力し合いながら改善して行って欲しい。 ・学校経営計画の評価は学校の自己評価であり、どうしても厳しくなりがちであるが、生徒指導や校内LANの課題については年度内にしかりと対応して改善している。従って、その他の評価についても学校が努力して改善した点については最終評価で良い評価に変更すべきである。 ・家庭に様々な課題を抱えている生徒も増えてきている。特に、ヤングケアラーの問題が最近話題になっているが、学校として可能な限り事実を掴み、行政機関等と連携することで子どもたちが落ち着いた環境で教育活動を受けられることができるようお願いしたい。 ・コロナ禍ということがあり様々な制限がある中で教育を進めることはたいへんであるが、コロナ禍であることを受け入れた上で、今できることをしっかりと行うことで子どもたちを育てて行って欲しい。 運営協議会委員の方々からいただいた意見を参考にして、コロナ禍の大きな影響や急激に変革が進む社会で生徒たちが生き抜いていける力を育成していく。そのためにＢＹＯＤ等のスマートスクール推進事業や中学校と連携して進めている英語指導力向上事業、大学や地域と連携して進めているいさなご探究を核として、今の峰山高校の勢いを止めることなく更に加速させ学校経営をより確かなものにしていく。 次年度から始まる観点別評価や新しい学力観を意識した教育活動を実施させながら希望進路実現にもしっかりと対応し結果を残していく。コロナ禍が続くことで教育活動が制限されたり、心のケアが必要になったりする中で、ICT機器等の有効活用による工夫で学びを継続させ、生徒たちの様々なストレスについてはスクールカウンセラーや各関係機関と連携することで安心安全な学校生活を保障していく。次年度も地域や関係機関と連携し、学校運営協議会の御意見を活かしより有用な教育活動を実施していく。
------------------	--

次年度に向けた改善の方向性	【全体】 ①各領域の重点目標及び具体的方策の焦点化と目標値の検討 【特色化事業】 ②コロナ禍における事業手法の工夫と社会貢献意識の醸成 ③大学等の教育機関との連携とroots（京丹後市未来チャレンジセンター）を介した地域連携による事業促進 【学習指導】 ④新しい学習指導要領に対応した指導・評価の充実 ⑤ICT機器を有効活用した教育の充実とBYOD活用の組織的で効果的な運用促進 ⑥探究的な学習の深化と主体的に学ぶ姿勢の育成のための組織的な取組の充実 【生徒指導】 ⑦規範意識の醸成とICT機器の使用に関する情報モラルの育成 ⑧部活動加入率及び定着率の維持のための学習と課外活動の両立に向けた整備 【進路指導】 ⑨分掌・学年部・教科等との連携による進路指導体制の更なる充実 ⑩進路指導部を中心とした安定した進路指導計画の確立 【人権教育】 ⑪人権学習の効果的な実施と日常の指導における自尊感情の涵養 【家庭・地域連携】 ⑫ホームページ及びチャットツールを活用した情報発信と保護者との情報共有手法の確立 ⑬学校運営協議会やPTAの支援に基づく家庭・地域との更なる連携 【図書・情報活動】 ⑭新図書館の有効活用と言語活動の充実に向けた多角的な利用の推進 ⑮行事等でのＩＣＴ機器の有効活用とセキュリティ体制の維持 【健康・安全指導】 ⑯生徒保健委員による健康観察徹底及び美化意識向上の取組の充実 ⑰教職員のカウンセリングマインドの育成と組織的な教育相談体制の更なる充実 【特色ある専門学科】 ⑱教育活動と進路実現の更なる充実による魅力ある機械創造科の更なる進化 ⑲地元企業・諸団体との更なる連携強化（デュアルシステム・インターンシップの充実）
---------------	---